

原題「Sitting in the fire」

対立の炎にとどまる

自他のあらゆる側面と向き合い,未来を共に変えるエルダーシップ



写真: Wikipediaより

アーノルド・ミンデル Arnold Mindell

- プロセスワーク,ワールドワークの創始者.MIT大学院修士課程修了(理論物理学).ユニオン大学院Ph.d. ユング心理学,老荘思想,量子力学,コミュニケーション理論,市民社会運動などの知恵をもとに個人と集団の葛藤・対立を扱うプロセスワークを開発。
- 世界中の社会・政治リーダーやファシリテーターの自己変容を支援している。著作に「対立を歓迎するリーダーシップ」「ワールドワーク」「プロセス指向のドリームワーク」など多数。
- アメリカ合衆国はマサチューセッツ工科大学で物理学を学び,スイスのチューリッヒにあるユング研究所で分析心理学を学び,ユング派分析家となる。身体の体験,特に身体症状が夢に反映されるという点に魅了され,独自の研究を始める。

2023/4/19



Table of contents

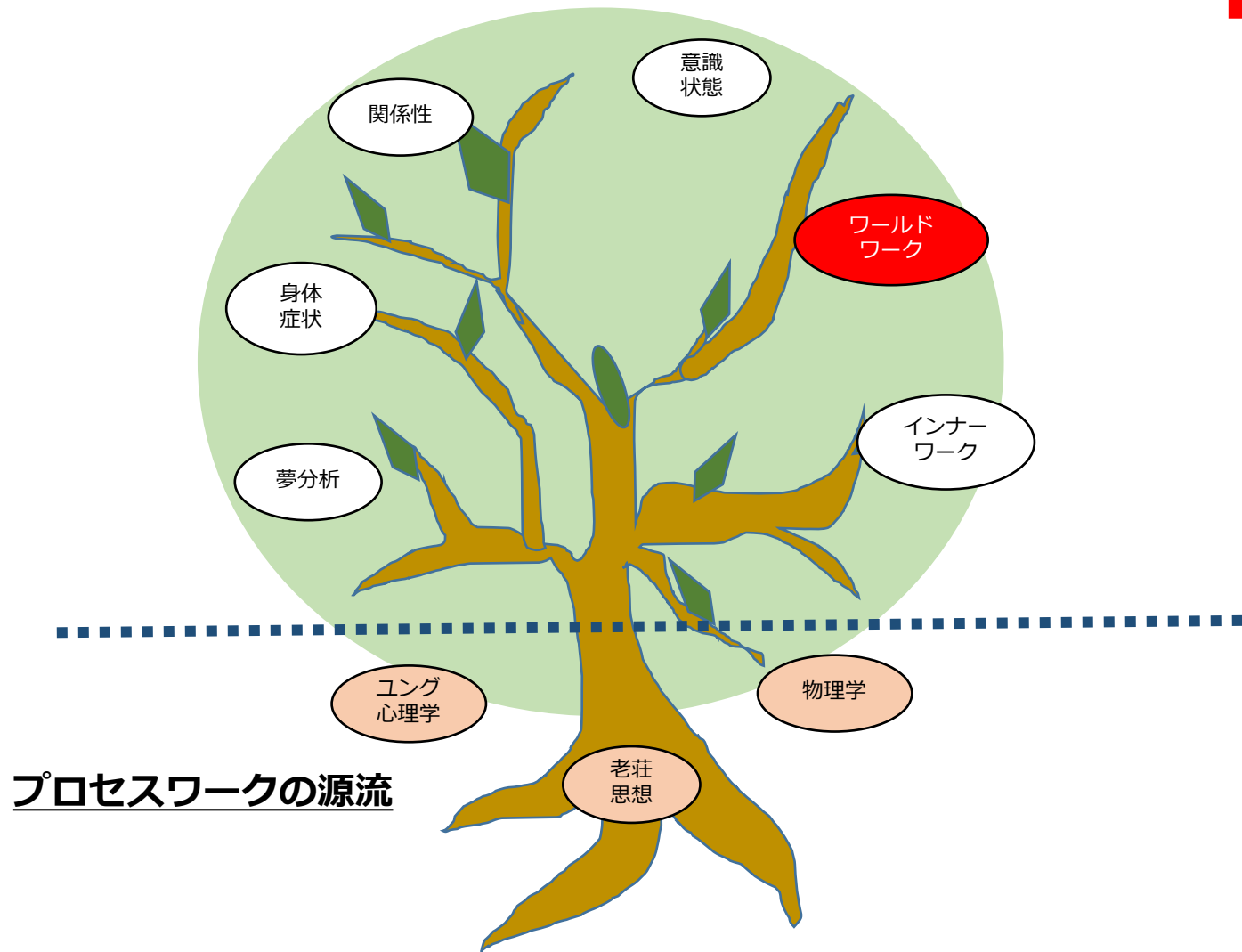
第一部 人間の内側から見る対立の歴史

- 第01章 炎----自由の代価
- 第02章 集団----きわめて困難な試練を与える教師
- 第03章 **ランク**----ダブルシグナル
- 第04章 人間関係におけるパワーと偏見
- 第05章 復習と文化の変容
- 第06章 **テロリストを抱きしめる**
- 第07章 ファシリテーター自身が抱える虐待の問題
- 第08章 公然の虐待と、自分の声を見出すこと
- 第09章 良い社会がいかにか戦争をつくりだすのか
- 第10章 人種差別主義者は誰？

第二部 変革を起こすエルダーシップ

- 第11章 「激流」について歌う
- 第12章 誰がお金を持っているのか？
- 第13章 **エルダーのメタスキル**
- 第14章 暴力や怒りと向き合う
- 第15章 戦争状態に関する、テクニックと**タオ**
- 第16章 **アウェアネスの革命**

ミンデルが創設したプロセスワークとは？



プロセスワーク

※ プロセスワークでは、「自然に対する慈愛」こそが最も重要だと語っている。ここでの自然とは、パワーの多様性が肯定されることを意味している。

【1次プロセス】

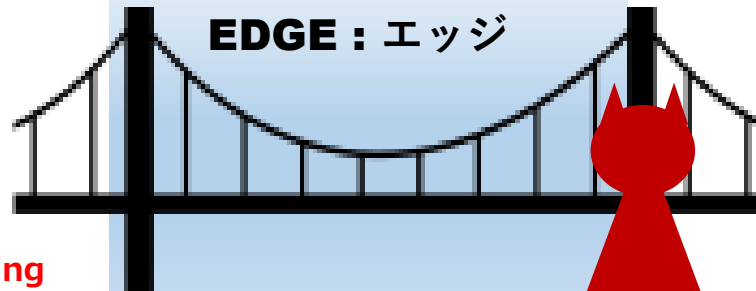
- 普段の、心地よい
- よく知っている

【2次プロセス】

- よく知らない、慣れていない
- 現れようとしている(emerge)

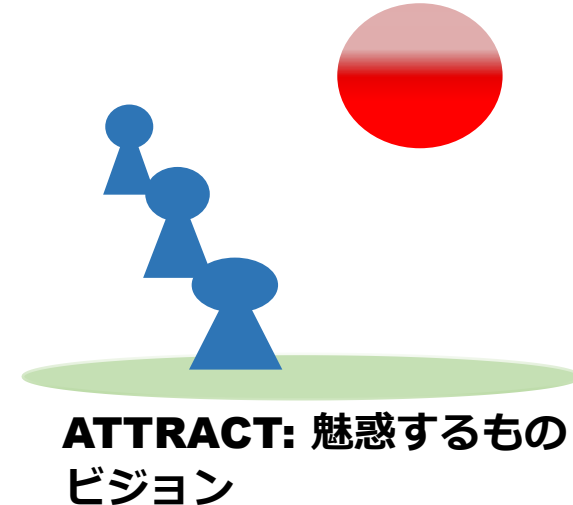
慣れ親しんだもの

DISTURB : 妨害



RESISTANCE: 抵抗

信念・価値観、態度、構造



- ✓ 個人や組織の変化について考えるプロセスワークは、変化の妨げになる障壁をエッジと呼ぶ。
- ✓ ヒトや組織は普段慣れ親しんだアイデンティティ(1次プロセス)。
- ✓ しかし、そこには常に新しいアイデンティティが生まれてくる可能性がある(2次プロセス)。
- ✓ この間には常にエッジがあり、私たちが普段のあり方に留めている。
- ✓ エッジをいかに自覚的に扱っていくかが、個人や組織の変革のカギとなる。

<用語説明>

✓ エッジ

- 現れようとしている何かを怖れの感情ゆえに抑圧するとき起こる、個人や集団におけるコミュニケーションの行き詰まりや対立の回避行動。
- 集団のエッジにはゴーストの存在(暴君的存在など)、価値観や文化、組織創造や制度なども含まれる。対立のファシリテーションが行われると集団はエッジを扱い新たなアイデンティティを獲得できる。

✓ 一次プロセス

- 自分を表す際に使っている自己表現、手段、文化。
- 個人や集団の慣れ親しんだアイデンティティ。

✓ 二次プロセス

- いまだ同一化していないアイデンティティ。
- すでに現れ出ており、エッジ周辺の自覚を高めることで明らかになってくる未来の可能性。

✓ 一次シグナル

- アイデンティティに一致して意図して発せられるメッセージ。

✓ ダブルシグナル

- 意図せずに発生されるメッセージ。
- 自覚はないがエッジやゴースト、二次プロセスに一致するシグナルとして現れる。(例えば、一時シグナルとしては友好を示しつつ、攻撃的な視線を送って相手を批判するダブルシグナルを発しているなど。)

「ワールドワーク」は、集団をコントロールするのではなく、人々がお互いやその場の雰囲気を開くことを促すもの

< ワールドワークの視点 >

□ 混 乱

- ✓ グループで起こる対立や混乱に価値がある。なぜなら、その直後には community(共同体)の感覚が生まれ、持続可能な組織が築かれる。

□ 学 ぶ 姿 勢

- ✓ 対立こそが最も刺激的な教師である。

□ 開 か れ た 心

- ✓ 対立の炎にとどまりながらも燃え尽きないようにするために、開かれた心を大切にしている。その炎をコミュニティ創造のために活用する

□ 自 己 認 識

- ✓ 自分自身は身の回りで起こるあらゆる対立の一部であると認識することが強く求められる。自己認識を活用する技術は紛争解決の一部である

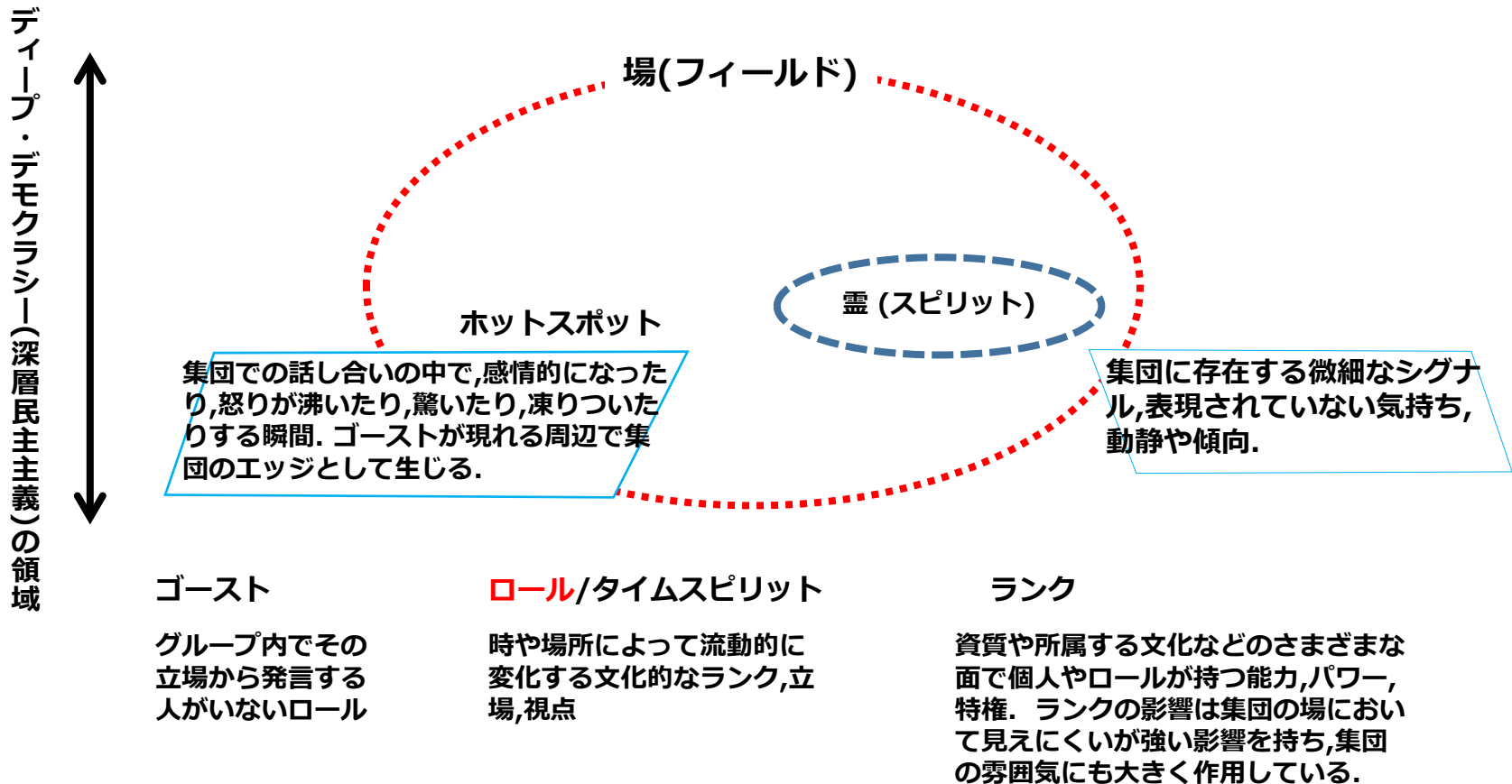
□ 大 切 な も の

- ✓ ワールドワークでは未知なるものを尊重する姿勢がコミュニティを持続させる仕様になると考える

ワールドワークの基本的な用語・考え方

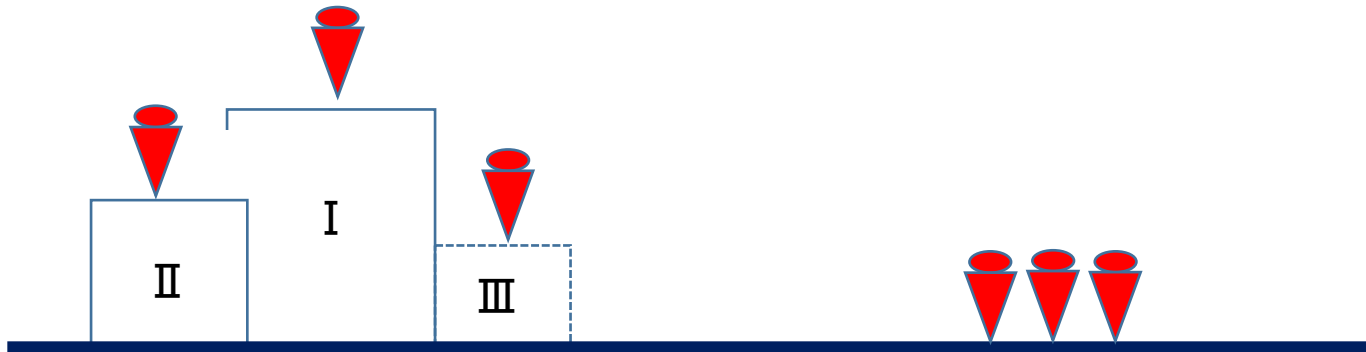
場（フィールド）

通常の民主主義は個人や集団の発言や振る舞いなど表面的な部分を扱う。
 ディープ・デモクラシーではそれに加えて、感情や感覚といった意識の深いレベルや、
主流派だけでない周縁化された人々の声も重視する。全領域にアウェアネスが必要とされる。



【ランク】 -- 個人が持つ特権の集合体 --

- ✓ 例：男性,白人,高学歴,プロフェッショナルな職業人などがランクが高い=特権を持つ
- ✓ 重要なのは、ランクの高低は、人物の価値に無関係



【ランクが高いと】

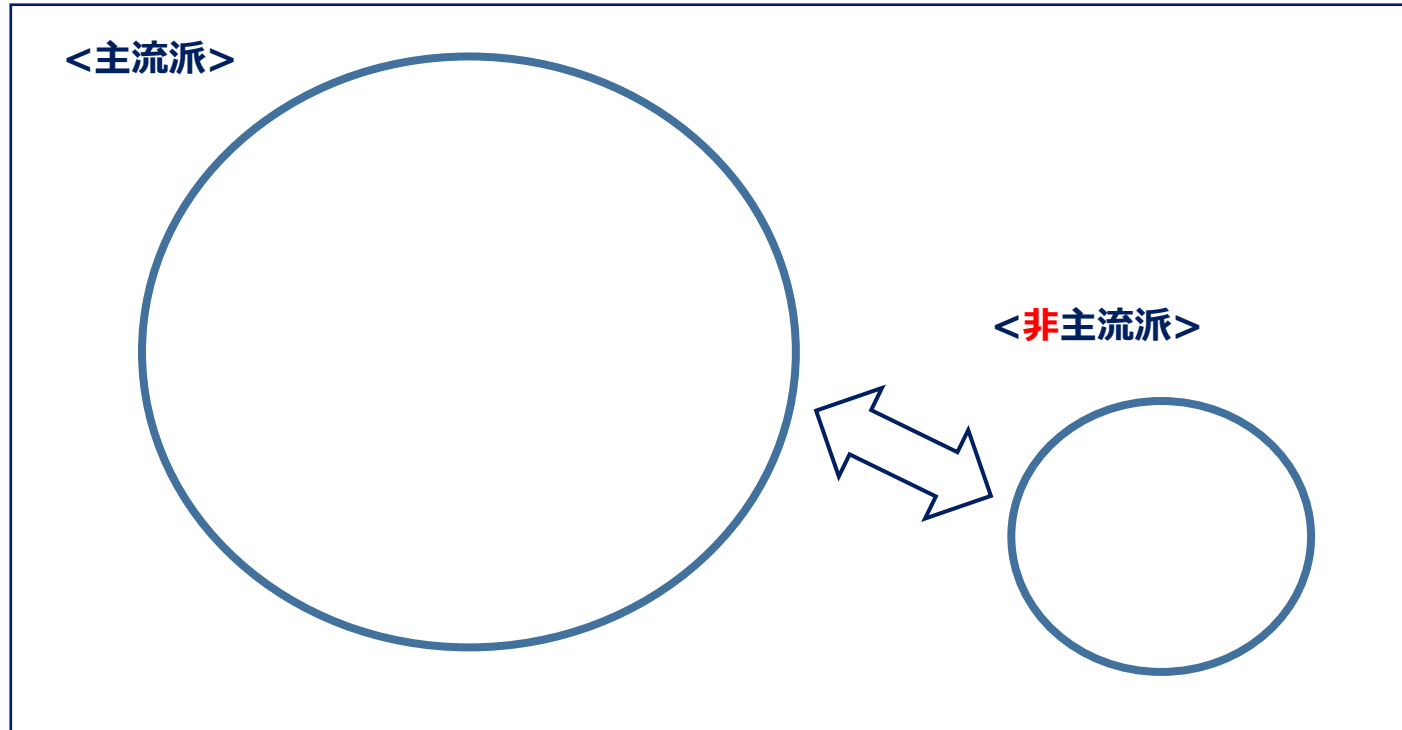
- ✓ リラックス
- ✓ 自由にふるまう
- ✓ ランクに無自覚

【ランクが低いと】

- ✓ リラックスできない
- ✓ 自由にふるまえない
- ✓ ランクを強く自覚

【ランクが引き起こす対立関係】

- ✓ ランクが高い側が無自覚にランクを行使する
- ✓ ランクが高い側は必ずしも悪意はない
- ✓ その一方、ランクが低い側はバカにされたと怒りを覚える
- ✓ 臨界点を超えると「紛争・対立」に発展

**【主流派】**

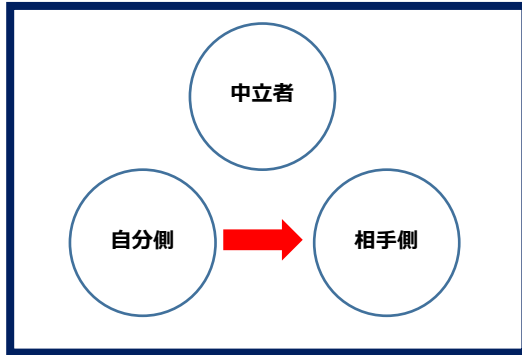
- ランクが高い
- パワーを持つ
- 組織の中心にいる
- 注目されている
- 意見を言う

【非主流派】

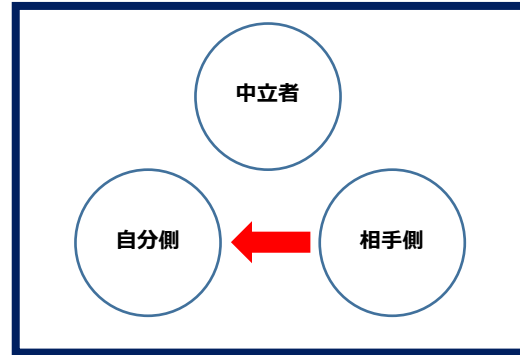
- ランクが低い
- パワーを持っていない
- 組織から周縁化されている
- 注目されていない
- 意見を言えない

重要なことは「薪」を燃やし尽くす ⇔ 対立を歓迎する

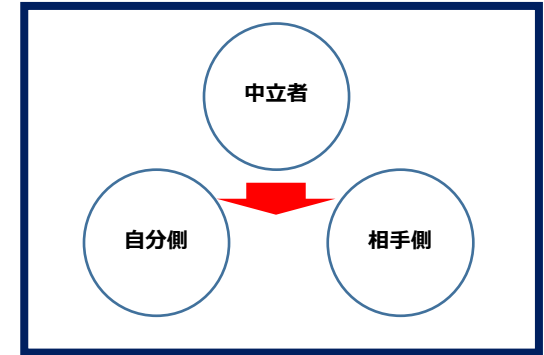
ロールスイッチ



- 相手側に自分が感じる違和感を全て吐き出す。
- 「全部吐き出した」ことにより、第三者的に物事を見る余裕が生まれる。



- 「薪を燃やし尽くした」ことにより、相手側ロールを容易にとることができる。
- 自分が偏見で解釈していた情報が中立的立場で相手側ロールに流れ込む。
- 相手側の立場が深いレベルで理解できる。



- 深い気づきを得たことにより、中間者として、建設的な言葉を相手方に語り掛けることになる。

- 階層間に対立(視点・意識の違い)があることを肯定する
- 問題に潜在する対立を適切に扱う
- パワー(権力・影響力) への「**アウェアネス**」がカギ

第06章 テロリストを抱きしめる (pp. 153-154)

【テロリズムも麻薬となりうる。】

- ✓ ひとたび復讐の力によって異議を表明したり世界を変える体験をすると、テロリズムは中毒になりうる。
- ✓ 復讐はドイツ語では、" **die Rachsucht** " と呼ばれ、字義通りに翻訳すると、「激怒への中毒」を意味する。
- ✓ 正義の力は気持ちいいものだ。それは甘美なものであり、とても強い満足感をもたらす。場合によってはもっと欲しくなる。
- ✓ 文化的な間違いを正そうという熱意を持つ人々が、威圧的で不寛容になったり、派閥主義や内紛を生み出したりすることがあるのは、まったく驚くことではない。
- ✓ 私たちはみんな、あるプロセスでは犠牲者になりうると同時に、他のプロセスでは加害者になりうるのだ。
- ✓ 他者にパワーの乱用を警告するときに耳を傾けてもらうには、自分が持つパワーの行使が盲目的、中毒的になりうると自覚しておくことが最も重要である。

エルダーシップ

エルダー ※ アウェアネスを促す存在

- エルダーとは直訳すれば、「長老」ですが、対立の炎を避けることも炎に燃やしつつくされることもなく、炎の中に座して自分と人々の気づきを探求するあり方のことを指す。
- 場が開かれた心を持ち、対立する意見の双方に心を開き、集団を一つにする人。



インナーワーク

- 瞑想のように一人で行う、プロセスワークの内省手法。
- 対立にも心を開くエルダーのような態度を身に着けるには、個人が自分の中の痛みや対立に反応する側面に向き合う必要がある。
- インナーワークは、対立を未然に防ぎファシリテーションを円滑に進められるようになるための自己成長の機会となる。

アウェアネス

- 通常は意識されない部分も含めて、個人の内面・行動・人間関係・集団の場で起きている事象に対する気づき。

メタスキル

- 理論・情報・手法が適用されるときにもなう感情。
- 例えばファシリテーションやコーチングがスキルだとすると、スキルをどのような態度で使うかで他者に与えるインパクトは異なる。
- 好奇心、慈愛心、コンパッションなどもメタスキルと言える。

第16章 「アウェアネスの革命」 (p.369)

- ✓ ワールドワークは,あなたが街や国や世界の一市民としてどうあるかに影響を及ぼす.
- ✓ あなたがエルダーシップを育むと,コミュニティという川を解放し,再び流れるように促せるだろう.
- ✓ エルダーシップが育まれるにつれて,あなたは内面から変化する.
- ✓ ランクへの自覚が高まるとともに,あなたの人間関係が深まっていく.
- ✓ あなたが所属するグループや住む街は,あなたの参加を嬉しく思うだろう.
- ✓ 課題や問題は,単に解決されるべき存在というだけではない. コミュニティーへの道でもあるのだ.
- ✓ あなたが所属するコミュニティは,対立にどう取り組むかが歴史を決めることに気づいている.
- ✓ エルダーシップを育むことで,あなたやあなたが所属するグループは,人類の意識に革命をもたらすのだ.